

平成29年度 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）
事業実施主体 評価一覧

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | 評価 | 評価コメント |
|------|------|------|-------------------|--------|-----|-----|----|---|
| | | | | H29 | H30 | H31 | | |
| 沖縄 | 沖縄 | 今帰仁村 | 今帰仁村インバウンド農泊推進協議会 | ● | ○ | □ | B | <p>廃校を活用した農家レストラン、宿泊施設等の利用者獲得に向けて、今帰仁村、加工事業者、直売事業者等と地域ぐるみでの取組を行い、農泊地域案内ツールや食農体験プログラム、農泊モニターツアー等の開発により、香港や台湾をターゲットに農業体験等の新たなプログラムを開発し、売上、宿泊者数ともに目標を達成した。</p> <p>一方、事業実施体制が脆弱であり、事業実施に支障をきたしている。今後の事業の継続性確保には懸念があり、事業実施体制を十分に構築する必要がある。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 糸満市 | 糸満市観光まちづくり協議会 | ● | ○ | □ | A | <p>糸満ブランド農泊の確立のため、地元の野菜ソムリエや行政、民間団体等が連携し、他の地域とは異なる特色を活かした「大人の農泊・インバウンド向け農泊」の多様な体験プログラムを構築する取組を行った結果、売上、宿泊者数ともに目標を達成した。</p> <p>「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されたことと、プロモーション活動に力を入れた結果、新聞掲載10回、テレビ放映3回と効果的にPRを行ったことは特筆すべき事項である。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 名護市 | 名護市農泊推進協議会 | ● | ○ | □ | C | <p>やんばる地域の魅力ある資源を観光メニューとして、多様な観光客の受入が可能となるような体験プログラムを充実させ、農家レストラン、直売所等と地域ぐるみで受入体制の構築に取り組んでいる。宿泊人数については目標未達成となったものの、売上は目標を概ね達成し、業績を大きく向上させていることについては高く評価したい。</p> <p>また、体験については、収穫体験などを確立するとともに、琉球大学と連携した地域資源の掘り起こしなどの取組を積極的に実施し、ニュースや新聞などの複数のメディアに取り上げられた。</p> <p>農泊の立ち上げの難しさについては十分理解するが、今後は宿泊者数の目標達成を目指すとともに、更なる地域資源を活用した農業体験等の発掘に取り組むことを期待する。</p> |

平成29年度 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）
事業実施主体 評価一覧

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | 評価 | 評価コメント |
|------|------|------|----------------|--------|-----|-----|----|--|
| | | | | H29 | H30 | H31 | | |
| 沖縄 | 沖縄 | 宮古島市 | 伊良部島食と暮らし事業協議会 | ● | ○ | □ | A | <p>伊良部島は伊良部大橋の開通により増加している観光客等へ対して、農漁業体験やまち歩きなどの体験プログラムの充実が課題となっており、今回、宮古島観光協会を中心に本交付金を活用しつつ、行政機関や伊良部島内の7集落などが連携し円滑に事業を実施した。</p> <p>これまでの実績では、食の聞き書き調査や伊良部島食文化・料理講習会など、計画よりも多くの取組を実施しており、本事業の効果を十分に発揮し、その活動は地域の活性化に貢献している。</p> <p>目標については、交流人口、売上、雇用ともに達成しており、本事業の効果を十分に発揮していると認められる。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 宮古島市 | ともり・うるか地域協議会 | ● | ○ | □ | A | <p>農泊を持続的に実施するために、琉球大学や企業の研修、一般観光客の受入拡大を図るため、地域の農家及び行政と地域ぐるみで受入体制の構築を行った。</p> <p>また、琉球大学と連携し、受入農家や地域の農家等の調査を実施し、新たな農泊地域の確立に向けて積極的に取り組んだところ、売上、宿泊人数ともに目標を達成しており、本事業の効果を十分に発揮していると認められる。</p> <p>一方、会員農家の高齢化が進む中、農繁期における民泊受入については長期的な対策が必要となっており、そのための「大人の民泊」についても、取組の持続性確保のためには、受入のルールづくりなどといった重要な課題が残されている。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 東村 | 東村観光推進協議会 | ● | ○ | □ | A | <p>農泊を中心とした地域資源を繋ぐ観光コンテンツの充実を図りつつ、教育的価値に主軸をおいた戦略に基づき、教育旅行での利用をメインに旅行会社や学校側へのアプローチに取り組んだ。売上、宿泊人数ともに目標を達成しており、本事業の効果を十分に発揮していると認められる。</p> <p>今後は地域が連携した受入体制の維持とともに、インバウンド向けの体験プログラムの構築やPRを強化することを期待したい。</p> |

平成29年度 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）
事業実施主体 評価一覧

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | 評価 | 評価コメント |
|------|------|------|-------------------|--------|-----|-----|----|---|
| | | | | H29 | H30 | H31 | | |
| 沖縄 | 沖縄 | 伊是名村 | NPO法人島の風 | ● | ○ | □ | A | 地域の行政機関、観光協会や民間団体と連携し、地域ぐるみでの受入体制の構築に取り組んだ。 当初計画をしていた古民家の改修については、理解しうる諸事情により実施出来なかったものの、島暮らし体験プログラム、試住プログラム等については、計画どおり実施した。 目標については、売上、宿泊人数ともに達成しており、本事業の効果を十分に発揮していると認められる。 |
| 沖縄 | 沖縄 | 竹富町 | 黒島田舎体験プロジェクト実行委員会 | ● | ○ | □ | B | 黒島の持つ魅力、自然、文化財を活用した新たな観光コンテンツの確立のため、「ブライダル事業」「島の星空案内人材育成」「修学旅行の受入」などの各取組を実施したが、目標については、売上、宿泊人数ともに未達成となった。事業実施主体の体制についても役割分担などの明確化を図り、今後の自律的な活動継続に向けた体制構築が急務となる。 また、黒島牛追い祭りなど既存のイベントからノウハウを学び、新たな観光コンテンツの確立とともに事業の持続性を確保すべく、今後も引き続き受入体制の構築、事務体制の人材確保についても積極的に取り組んでいただきたい。 |

（注1） 「事業実施段階」の凡例： ソフト対策 ○・・・交付対象年度（計画） ●・・・交付対象年度（実施済） □・・・目標年度（計画） ■・・・目標年度（実施済）
ハード対策 ☆・・・交付対象年度（計画） ★・・・交付対象年度（実施済） ◇・・・目標年度（計画） ◆・・・目標年度（実施済）

（注2） 「評価」の区分： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

【平成29年度農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の評価概要】

○農泊推進事業（農泊推進対策）

今回は、新たに8地区の評価を行った。糸満市観光まちづくり協議会・伊良部島食と暮らし事業協議会・ともし・うるか地域協議会・NPO法人東村観光推進協議会・NPO法人島の風の5地区がA評となっており、事務体制がしっかりしていることで持続性のある事業が実施され、PR活動や地域に貢献している点が共通して評価されている。

B評価の2地区について、今帰仁村インバウンド農泊推進協議会は、取組については高評価であったが、事務体制が脆弱という指摘があり今後整備が必要とされる。また、黒島田舎体験プロジェクト実行委員会では、地域資源や自然を活用したプログラムが評価されているが、実施主体の整備や事務局の人材確保・育成、新たなコンテンツの確立について指摘と今後の課題が挙げられた。

C評価の名護市農泊推進協議会については、地域に寄り添った取組やイベントによる貢献への評価はあったが、目標を達成するための対策や積極性が求められた。

平成29年度 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）
事業実施主体 評価一覧

【平成29年度評価委員会の議事概要】

【評価委員会】

1. 日 時 平成30年9月19日（水） 14時00分～16時00分
2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室
3. 出席者
- ・評価委員会委員 2名 （五十音順）
幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
杉村 泰彦（委員長） 琉球大学農学部准教授
 - ・評価委員会事務局
沖縄総合事務局 3名

4. 議事概要

- 1) 農山漁村振興交付金の評価について
 - ・農泊推進対策（農泊推進事業・人材活用事業）の各実施団体の評価内容（案）について、委員からの意見聴取を行った。
- 2) 農山漁村振興交付金の評価結果（案）の取りまとめ
 - ・上記1)の結果を踏まえ、農泊推進対策（農泊推進事業・人材活用事業）について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。

5. 評価委員会委員の主な意見

- ①今帰仁村インバウンド農泊推進協議会
 - ・農泊地域案内ツール開発や新たな体験プログラムの開発など先進的取組は評価するが、事務体制が脆弱なことで事業への支障を懸念し、事業継続のために事業実施体制の構築をする必要がある。
- ②糸満市観光まちづくり協議会
 - ・ブランド農泊の確立のため、「大人の農泊・インバウンド向け農泊」の多様な体験プログラムの構築に取り組み、メディアを活用したプロモーション活動で効率的なPRを行った。
- ③名護市農泊推進協議会
 - ・地域資源の掘り起こしや活用を実施し、売上の向上は評価するが、新たな取組である農泊が目標に達しなかったため今後は積極的に取り組むことを期待する。
- ④伊良部島食と暮らし事業協議会
 - ・実績、目標については問題ないが、やはり増加している観光客への対応や滞在型への移行が最大の課題となる。
- ⑤ともし・うるか地域協議会
 - ・地域や行政との連携がうまく活用されているが、農家の高齢化に伴う問題や民泊へのルール作りが今後の重要な課題となっている。
- ⑥NPO法人東村観光推進協議会
 - ・地域資源を繋ぐ観光コンテンツの充実や地域との連携については評価するが、インバウンド向けのコンテンツの構築やPR活動強化について今後期待したい。
- ⑦NPO法人島の風
 - ・実施できていないこともあるが、目標達成やインバウンド向けのコンテンツの開発、島暮らし体験や試住プログラムなど積極的な取組が実施されている。
- ⑧黒島田舎体験プロジェクト実行委員会
 - ・新たな観光コンテンツの確立への取組が評価されるが、事業の持続性の面から事務体制の構築が急務となっている。